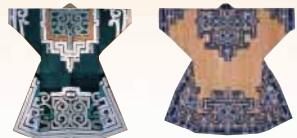




ゆうごとみゆきの

なるほどアイヌ文化エッセイ ソンコ・de・ソンコ



アイヌ文化のことをもっともっと話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、
その魅力を交代で執筆する
ソンコ(=お便り)形式のエッセイです。

Vol.74
今月のテーマ

イクパスイー伝えること



村木美幸
(アイヌ民族
文化財団理事)

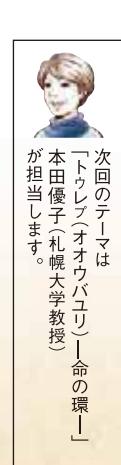
この春、私の勤めて
いるアイヌ民族博物館
は、国のアイヌ政策の
「扇の要」とされる「民族共生象徴空間」
の整備に伴い閉館しました。閉館日には、
当館の活動を支えてくれた多くの先人たちへの感謝の祈りとして、酒や団子などのお供えをしてシンヌラッパ(先祖供養)をおこないました。

シンヌラッパを含めアイヌの酒を伴う祈りには、必ずイクパスイと呼ばれる木製の籠状の祭具が使われます。私たちの言葉は、いくら心を込めても、丁寧であつても

雄弁でも、大声でも、直接はカムイ(神)に届かないとされているので、カムイに言葉を届ける役割を担うひとつがイクパスイなんですって。イクパスイの先に酒をつけ、酒の滴をたらしながら祈ることで、カムイに言葉が届き、その上、私たちの言葉が足りなかつたり、間違えたりしても、それを補つてカムイに伝えてくれるっていうから、願つたり叶つたりというか理想的なアイテムなんですね。言葉を補うことができるとこには、祈り手の「こころを理解しているか」ができるひとことですよね。



イラスト／莊田悠人



るのに使用するということで「酒捧箸」、酒を飲む際にイクパスイで口元の髭を押さえたり、上げたりするように見えることから「ひげべら」や「ひげあげべら」と訳されたりもします。

我が家にも祖父の代から百年以上にわたって使つてきた一本のイクパスイがあります。祖父が彫つたもののはわかりませんが、長さ三十センチの表面にはびっしりと彫り文様が施され、裏面の先端には三角に彫られたパルンペ(舌)と呼ばれる印がついています。地方によつても違いますが、白老ではパルンペの無いイクパスイは喋ることができない(=言葉を伝えられない)として、その有無は重要なといいます。

祖父から父と母が引き継ぎ、そして私たち兄妹に甥や姪も、お盆にお彼岸、命日にと、この一本のイクパスイを使って先祖供養をします。イクパスイは言葉とともに、私たち家族の思いも伝えてくれた大切なものです。



■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■莊田悠人(しょうだゆうと):平取町二風谷生まれ。漫画家兼イラストレーター。幼い頃のアイヌ文化が原風景。東京在住。